

夏秋きゅうり防除暦(前半)

防除時期	使用薬剤名	水 100% 当りの量	使用量	使用回数	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備考
1 定植時 5月上旬 下旬	アクタラ粒剤5 オリゼメート粒剤		1g/株 5g/株	1回 1回	P2	4A	アブラムシ類、トマトハモグリバエ コナジラミ類 斑点細菌病	ベリマークSC処理苗の場合、アクタラ粒剤5を使用しなくてもよい
2 5月 下旬	展着剤(ハイトンパワー) ウララDF ダコニール 1000	10mℓ 50g 100mℓ	200L	3回以内 12回以内	M5	29	アブラムシ類、コナジラミ類 べと病、うどんこ病、炭そ病、褐斑病 灰色かび病、黒星病	
3 6月 月上旬	展着剤(まくぴか) アルバリン顆粒水溶剤 オーソサイド水和剤 80	30mℓ 50g 166g		2回以内 5回以内	M4	4A	アブラムシ類、コナジラミ類、 アザミウマ類、ウリハムシ、カメムシ類 褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	
4 6月 上中旬	展着剤(まくぴか) アディオン乳剤 カーニバル水和剤	30mℓ 50mℓ 100g	300L	3回以内 3回以内	40+M5	3A	アブラムシ類、オンシツコナジラミ ウリハムシ、べと病、 炭そ病、褐斑病、うどんこ病	
5 6月 中旬	展着剤(まくぴか) ダニサラフロアブル プレバソンフロアブル5 ジマンダイセン水和剤	30mℓ 100mℓ 50mℓ 166g		2回以内 3回以内 3回以内	M3	25A 28	ハダニ類、ウリノメイガ、ハモグリバエ類 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	
特別	6月 中下旬	トップジン M ペースト (塗布)	原液	5回以内	1		つる枯病	接ぎ木部を中心に 地際から 20cm 塗布
6 6月 下旬	展着剤(ハイトンパワー) ダントツ水溶剤 ドーシャスフロアブル	10mℓ 50g 100mℓ	300L	3回以内 4回以内	21+M5	4A	アブラムシ類、カメムシ類、 ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ類 炭そ病、べと病、うどんこ病、 褐斑病、黒星病、	
7 6月下旬 ~ 7月上旬	展着剤(まくぴか) スピノエース顆粒水和剤 ダイパワー水和剤	30mℓ 20g 100g		2回以内 5回以内	M7+M4	5	アザミウマ類、ハモグリバエ類、 ウリノメイガ うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病	
8 7月上旬	展着剤(まくぴか) ジマンダイセン水和剤	30mℓ 166g	300L	3回以内	M3		べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	アブラムシ類の発生が心配 される場合は「ウララDF」 (2,000倍)を加用する。
9 7月 中旬	展着剤(アビオン E) ヨーバルフロアブル カーニバル水和剤	100mℓ 40mℓ 100g		3回以内 3回以内	40+M5	28	ハスモンヨトウ、アブラムシ類、コナジラミ類 ウリノメイガ、ハモグリバエ類、アザミウマ類 うどんこ病、べと病、褐斑病、炭そ病	
10 7月 中下旬	展着剤(アビオン E) コロマイト乳剤 ミギワ 10フロアブル	100mℓ 100mℓ 100mℓ	300L	2回以内 3回以内	52	6	ハダニ類、ハモグリバエ類、(コナジラミ類) 菌核病、炭そ病、つる枯病、灰色かび病	つる枯れ病が発生している 場合「スミレックス水和剤」 (1,000倍)を加用する。
特別	7月 中下旬	トップジン M ペースト (塗布)		原液	5回以内	1		つる枯病
11 7月 下旬	展着剤(まくぴか) コルト顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤	30mℓ 25g 166g	300L	3回以内 3回以内	M3	9B	アブラムシ類、コナジラミ類 べと病、黒星病、炭そ病、疫病、 褐斑病、つる枯病、斑点細菌病	
12 7月下旬 ~ 8月上旬	展着剤(まくぴか) トレボン乳剤 ゲッター水和剤	30mℓ 100mℓ 66g		3回以内 5回以内	10+1	3A	アブラムシ類、コナジラミ類 褐斑病、炭そ病、灰色かび病、菌核病	

◎混用例：展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

当防除暦の複製・コピーを禁止します

夏秋きゅうり防除暦(後半)

防除時期	使用薬剤名	水 100 倍 当りの量	使用量	使用 回数	FRAC	IRAC	対象主要病害虫	備 考
13 8月上旬	展着剤(ハイテンパワー) ディアナ SC セイビアーフロアブル 20	10mℓ 40mℓ 100mℓ	300L	2回以内 3回以内	12	5	アザミウマ類、コナジラミ類 ハモグリバエ類、ウリノメイガ 褐斑病、灰色かび病、菌核病	アブラムシが発生している場合は、「トランスフォームフロアブル」(2,000倍)を加用する。
14 8月上中旬	展着剤(まくぴか) アルバリン顆粒水溶剤 ベルコート水和剤	30mℓ 50g 50g		2回以内 7回以内	M7	4A	アブラムシ類、アザミウマ類、 コナジラミ類、カメムシ類、ウリハムシ うどんこ病、褐斑病、 炭そ病、灰色かび病	ハダニが発生している場合、 8月中旬のカネマイトフロアブルを前倒しで散布する。
15 8月中旬	展着剤(まくぴか) カネマイトフロアブル ダイパワー水和剤	30mℓ 100mℓ 100g		1回 5回以内	M7+M4	20B	ハダニ類 うどんこ病、褐斑病、炭そ病、べと病	
16 8月中旬～下旬	展着剤(ハイテンパワー) プレオフロアブル セイビアーフロアブル 20	10mℓ 100mℓ 100mℓ		2回以内 3回以内	12	UN	ウリノメイガ、アザミウマ類、 ハモグリバエ類 褐斑病、灰色かび病、菌核病	
17 8月下旬	展着剤(まくぴか) トレボン乳剤 オーソサイド水和剤 80	30mℓ 100mℓ 166g		3回以内 5回以内	M4	3A	アブラムシ類、コナジラミ類 褐斑病、炭そ病、べと病、つる枯病	褐斑病、炭そ病の発生がある場合は「オーソサイド水和剤 80」に代えて「ダイパワー水和剤」(1,000倍)を散布する。
18 8月下旬～9月上旬	展着剤(まくぴか) ベルコート水和剤	30mℓ 50g		7回以内	M7		うどんこ病、褐斑病、 炭そ病、灰色かび病	
19 9月上旬	展着剤(ハイテンパワー) ダコニール1000	10mℓ 100mℓ		12回以内	M5		炭そ病、べと病、うどんこ病 褐斑病、黒星病、灰色かび病	①オオタバコガが発生している場合「プレバソンフロアブル5」(2,000倍)を加用する。 ②アブラムシ類が発生している場合「コルト顆粒水和剤」(4,000倍)を加用する。
20 9月中旬	展着剤(まくぴか) モレスタン水和剤	30mℓ 50g	3回以内	M10	UN	うどんこ病、コナジラミ類	オオタバコガが発生している場合は「トレボン乳剤」(1,000倍)を加用する。	
21 9月下旬	展着剤(まくぴか) トップジンM水和剤	30mℓ 66g	5回以内	1		うどんこ病、炭そ病、灰色かび病 つる枯病、黒星病、菌核病		

混用順序：展着剤 → 液剤 → 乳剤 → 顆粒水溶剤 → 水溶剤 → フロアブル → ドライフロアブル(DF) → 顆粒水和剤(WDG) → 水和剤

- ※ 曇天・長雨などで日照不足時には「オルガミン(1,000倍希釈)」と「ハイプログリーン(1,000倍希釈)」を葉面散布する。
- ※ 散布間隔は5～7日を目安とし、降雨の前後は間隔を縮めて散布してください。
- ※ 農薬の混用順は下記を参考にしてください。
- ※ 気象条件や管理、品種等により発生病害虫が変わりますので、病害虫防除基準を参考にし状況変化に対応して下さい。
- ※ アミスター20フロアブル、アミスターオプティーフロアブル、フイントフロアブルは、浸透性のある展着剤(ニーズ、アプローチ BI、ミックスパワー等)とは混用しない。
- ※ うどんこ病が発生している場合は、発生初期にモレスタン水和剤 2,000倍・ネクスターフロアブル 1,000倍液で散布する。
- ※ IRAC・FRACのコード番号が連続しないように防除を組む。

主な葉面散布剤

商品名	成分等	使用目的	倍率
オルガミン	窒素 0.11%、苦土 4%、ほう素 0.7%、加里 0.11%、マンガ 0.25%、アミノ酸入り	光合成促進、成疲れ回避	1,000倍
ハイプログリーン	窒素 6%、リン酸 5%、カリ 5%、アミノ酸入り	成疲れ回避・光合成促進	500倍
アミノメリット特青	窒素 12%、リン酸 3%、カリ 3%、アミノ酸、ホリン酸、マンガ、ほう素、鉄、銅、亜鉛、モリブデン入り	成疲れ回避・光合成促進	500倍
ボロンセブン	窒素 3%、リン酸 6%、カリ 5%、ホウ素 7%、マンガ 5%、苦土 5%	ホウ素欠乏(くびれ果)対策	1,000倍